豊富温泉の軌跡

特設サイトで、年表のフルバージョンたくさんの写真アーカイブを公開しています。ぜひご覧ください。

とよとみ温泉
100th 特設サイト

大正14年　村井鉱業株式会社が石油試掘のため、R－1号井の掘削を開始

大正15年　5月17日夜半、９６０メートルの深度から天然ガスとともに温泉が噴出。

昭和7年　天塩電燈株式会社社長 中田鶴吉が温泉井の東方４００メートルの地点に自家ガス井を掘削、３５馬力のガスエンジンを使用し発電所を建設。温泉地区、東豊富及び豊富市街へ送電。

昭和12年　日曹鉱業株式会社が日曹炭鉱を開鉱。

昭和15年　日曹炭鉱専用鉄道が全通。

昭和22年　R－2号井掘削。

昭和32年　R－3号井掘削。北海道電力株式会社が豊富ガスタービン発電所を新設。（写真1）

昭和33年　豊富町が豊富温泉化学工業株式会社を買収、町営もとゆ館（＝現ふれあいセンター）事業開始。（写真2）

昭和47年　日曹炭鉱閉山。日曹炭鉱専用鉄道廃線。（写真3）

昭和48年　R－4号井掘削。

昭和49年　R－5号井、R－7号井掘削。利尻礼文サロベツ国立公園指定。

昭和50年　R－6号井、R－8号井掘削。豊富ガスタービン発電所 運転停止。

昭和51年　R－1A号井掘削。

昭和54年　町営もとゆ館火災。

昭和57年　町営ニューホテルサロベツ オープン。（写真4）

昭和58年　R－9号井掘削。豊富町が共同鉱業権に加入。

昭和61年　R－10号井掘削。

昭和63年　町営もとゆ館跡にふれあいセンター オープン。

平成4年　豊富温泉が国民保養温泉地に指定。温泉スキー場ロッジ完成。

平成8年　ふれあいセンター増築完成。

平成10年　R－11号井掘削。

平成11年　湯快宿 オープン。

平成18年　「アトピーフォーラム in 豊富」初開催。

平成20年　豊富町立温泉小学校閉校。

平成21年　豊富温泉コンシェルジュ・デスクがオープン。

平成23年　ガスコージェネレーションシステム（CGS）稼働開始。

平成25年　豊富町が単独の鉱業権者となる。温泉地区ガス準用事業開始。

平成27年　「日本の名湯百選」に認定。

平成29年　湯の杜ぽっけオープン。ふれあいセンターが温泉利用型健康増進施設に認定。自治体として初となるガス小売り事業者に登録。

平成30年　北海道ガス株式会社との連携協定を締結。

令和4年　温泉地活性化プロジェクト「温泉むすめ」豊富水由ちゃんデビュー

令和7年　DMR水素製造プラント完成。

令和8年　豊富温泉開湯100周年記念式典を挙行。

1. 日本初の事業用ガスタービン発電所

2. 建築中の町営もとゆ館

昭和39年、観光バスで賑わう豊富温泉

3. 昭和47年、日曹鉄道の廃線跡（豊富町内）

昭和末期の温泉市街

4. 町営ニューホテルサロベツ

豊富温泉のあらまし

大正15年5月17日、夜半に至り、９６０メートルの深度に達すると俄然一大音響とともに天然ガス及び温泉が噴出した。折柄の東風に30メートル余の中空に噴き上げる温泉は一帯が湯の雨となり、従業員一同を驚かせたという。

翌年、草葺き小屋が建てられ、木槽を設置、付近住民の入浴が始められた。男女混浴で入浴料1日の場合10銭、1回の場合5銭が徴収された。同年11月、現在の大師堂境内に浴場を新築、豊富温泉と称し開業した。

天然ガスについては、昭和7年、温泉井の東方４００メートルの地点に自家ガス井を掘削、35馬力のガスエンジンを使用し、発電所を建設した。同年12月から温泉地区、東豊富及び豊富市街へ送電、これが当町における電化の嚆矢となった。

この恩恵に浴したもの約１５０戸、荒涼たる天北の夜空に文化の華が咲いたのである。

豊富町史 第6編 第3章 第四節 抜粋